

非在来的な女性研究者支援のための研究基金
ープレリンガー賞のケースー

坂本 辰朗

『教育学論集』第70号

(2018年3月)

非在来的な女性研究者支援のための研究基金 —プレリンガー賞のケース—

坂本 辰朗

1.

1929年4月13日のことである。アメリカ女性大学協会（AAUW）の理事会には協会のシカゴ支部から、以下のような興味深い書簡が届けられていた。現在、大学やほかの団体からのフェローシップを受賞している女性の数は、男性のそれに比して極端に少ないという事実がある。どのような原因によるものなのか。また、この影響にはどのようなものがあるのか。協会が、この調査をおこなうべきである¹。

このシカゴ支部の要請に対して、理事会は次のように応えている。遺憾ながら、女性研究者にとってフェローシップ受賞は、現時点では困難があることは事実であるが、それは、財団の中には、男性のみにフェローシップを授与しているところがあること、さらには、研究を続けていけるのは男性のみであるといった前時代的発想がなおも残っているからである。このような実態調査は実現可能とは思えない²。

1920年代末という時代を考えれば、「財団の中には、男性のみにフェローシップを授与しているところがある」という事実は、女性研究者たちにとってまことに憂慮すべき事態であったが、これに敢えて抗議の声を上げても、恐らくは一顧だにもされなかったであろう。ただし、アメリカ女性大学協会の理事会は、これをただ座視していたわけではなかった。むしろ、より積極的な打開策を立案しつつあった。すなわち、すでに19世紀末にアメリカ女性大学協会が結成された直後からおこなってきた事業である、「女性のみに授与」するフェローシップの規模を文字どおり格段に充実させるという計画である。そのために、100万ドルを目指した基金集めを、全組織を挙げておこなっていたのである³。

研究者を対象に研究資金を授与する際に、最初から特定のグループを除外する（あるいは優先する）ことは、その後、時代を経るにつれて、学術研究における普遍主義の理念に抵触するという理由で、そのままでは容認されなくなる。しかしながら、大

学史あるいは科学史を少しでも参照するのならば、これまで、学術研究における普遍主義の理念が、とくにそれが、女性研究者への適用ということで、まがりなりにも実現した時代が訪れたことはただの一度もなかったことも事実である。上記のアメリカ女性大学協会のフェローシップもその代表であったが、20世紀を通じて、「女性のみに授与」する研究資金は、学術研究における普遍主義の理念が実現しない度合いに比例し、むしろ増殖を続けたといつてよい。以下にひとつの証左を挙げたい。

1977年、ゲイル・シュラクター (Gail Schlachter, 1943-2015) が、新たなレファレンス・ブックの出版社を興し、その一冊として『女性のための財政援助案内 *Directory of Financial Aids for Women*』を編集した際、この初版に収録された、女性のみを対象とした(あるいは女性優先の)スカラシップ、フェローシップ、グラントの件数は約300件で、200頁ほどの本であった。みずから一度は研究者となり、大学で教鞭を執り、さらにはアメリカ図書館協会の理事会メンバーとなった、この卓越したレファレンス・ライブラリアンが編集した、きわめて重宝なダイレクトリーの刊行は、その後、版を重ね、最新版(2017-2019年度版)では、件数で5倍近い1,443件を収録しているのである⁴。

しかしながら、女性のみを対象とした(あるいは女性優先の)研究資金を仔細に検討するのであれば、そこには、新たな方向を模索した賞をも認めることができよう。すなわち、既存の、“伝統と権威”がある研究資金の受給者におけるジェンダー・インバランスへの解消策としての、女性のみを対象とした(あるいは女性優先の)研究資金という位置づけではない、いわば21世紀型とも呼ぶべき研究基金への模索である。

本研究で取り上げるのは、女性歴史家調整協議会 (Coordinating Council on Women Historians) が1998年より授与しているキャサリン・プレリンガー賞である。筆者はこの賞を、21世紀型とも呼ぶべき研究基金への模索として捉えている。それは、ひとつは、この賞が、「非在来的」な女性研究者支援を全面的に掲げていることであり、かつ、その選考方法もまた、「非在来的」と言えるからである。以下、本論は、次のように構成される。

最初に、この賞を授与している、女性歴史家調整協議会とはどのような団体であるのか、その基本的な性格を把握するために、この団体の歴史を瞥見する。これは、プレリンガー賞の二重の非在来性が、この団体の創立の基本理念を反映したものと看做しうるからである。

第二に、キャサリン・プレリンガー賞の制定のいきさつを、基金の寄付者と女性歴史家調整委員会との間にかわされた文書をもとに明らかにする。

第三に、実際にプレリンガー賞への応募が開始されたあと、どのような研究者がこの研究資金に応募したのか、また、どのような選考基準で受賞が決定したのか、審査の過程で、何が問題となったのか、それにどのように対処したのかを見てゆきたい。

2.

女性歴史家調整協議会の組織上の起源は、1969年、アメリカ歴史学会（AHA）の中に結成された女性歴史家のグループである「歴史専門職における女性調整委員会（Coordinating Committee on Women in the Historical Profession、以下、CCWHPと略記）」に遡ることができる⁵。当時のアメリカ歴史学会は、学会執行部であるカウンシルによる長年に亘る排他的な学会支配が、ラディカル・ヒストリアンズと呼ばれるようになる改革派によって激しく批判され、根本的な見直しを迫られるようになっていた⁶。1969年12月末のワシントンDCでのアメリカ歴史学会年次大会の総会は、アメリカ歴史学会の構造改革をめぐる、複数の勢力が文字どおり激突する舞台となった。すなわち、一方では学会解体をも辞さないラディカル・ヒストリアンズに対して、これを押さえ込もうとする執行部、学会分裂の危機を憂う会員たちと、およそ通常の長閑な学会総会とは様変わりしたものであった⁷。論争の焦点は、アメリカ歴史学会という学会の構造改革にかかわるものであったが、同時に、あるべき歴史研究と歴史教育のありかたにまで及んだものであった。否むしろ、ラディカル・ヒストリアンズの発表した声明文は、社会改革のためのあるべき歴史研究と歴史教育が、必然的に、学会の構造改革を必要とすることを示していた⁸。

しかし、改革を望んだのは上記のグループだけではなかった。キャロル（Berenice A. Carroll, 1932- もともとはドイツ第三帝国の経済史で Ph. D. を取得した歴史家であったが、平和学、さらには女性学の研究を進めることになる。当時は、イリノイ大学講師）、ラーナー（Gerda Lerner, 1920-2012. コロンビア大学にて、グリムケ姉妹の研究で Ph.D. 取得。後にウイスコンシン大学教授。アメリカ合衆国を代表する女性史家となる。当時はサラ・ローレンス・カレッジ講師）らの女性歴史家のグループもまた、アメリカ歴史学会の最高決議機関カウンシルへ、女性歴史家が直面している問題について調査し報告するための委員会をつくるように請願書と決議文を提出した。

アメリカ歴史学会会員の署名を集めるためにキャロルが有志会員たちに送った書簡は、「歴史学における女性差別に反対するだけでなく、歴史学論文における『女らしさの神話（feminine mystique）』にも反対するために、歴史学研究に集う女性たちが団結するときに今まさに訪れました⁹」という書き出しで始まる。キャロルによれば、現在、必要とされるのは、アメリカ歴史学会が設立する公式の委員会やアメリカ歴史学会が採用する決議とは完全に独立した女性会派（Women's Caucus）なのであった¹⁰。この結果、結成されたのが、CCWHPであった。

CCWHP は、(1) 歴史専門職へ女性をリクルートすること、また歴史専門職における女性の地位の向上、(2) 歴史専門職における女性差別への反対、(3) 女性史分野における研究と教育の振興、を組織の活動目的として、前述のキャロルとラーナーが共同

委員長 (Co-Chairmen) に就任した。

以上の設立経過から分かるように、CCWHP はその最初から、一方で、「歴史専門職における女性」、すなわち、①歴史専門職における女性差別への反対、女性の地位の向上を目指すと同時に、他方では、②「歴史研究における女性」、すなわち、既存の歴史学研究における女性の脱落や歪曲を糾し、女性男性双方の経験を統合した新たな歴史学の創造を目指していたのである。

これら二つの目的は、CCWHP がおこなった初期の活動にきわめて忠実に反映されていた。すなわち、一方で、これらの歴史家たちは、ラディカル・ヒストリアンズたちがそうであったように、アメリカ歴史学会の構造改革を目指して、学会内に、女性歴史家の地位に関する委員会の設立を要求し、これを実現している¹¹。他方で、女性史——この時代は、女性史ということはそのものの存在が自明ではなかった——の研究・教育に関する情報の交換のためにニューズレターの発行を開始した。

しかしながら、ひとつの組織でこの二つの目的を両立させることは、相当の困難さを伴っていた。この困難さは、執行部ではすでに 1971 年末の時点で認識されていた。キャロルは、執行部に宛てたメモで指摘している。元々この組織は、二つの目的を持つ臨時的な組織として大急ぎで作られたものであり、「多くのメンバーは双方の目的に積極的な関心を寄せているが、そうでないメンバーも多数いる。そして、数は多くないが、これらのいずれか（の目的——引用者注）に深い疑義を持つメンバーがいる」と¹²。実際、書記担当と経理担当の改選にあたって指名委員会が打診したところ、候補者から受諾できないと断られた。これは、「本質的に異なる（これら二つの——引用者注）目的をひとつにしようとする努力」と関係があると思われる。

以上を踏まえて、キャロルが提案したのが組織の二分化——女性会派 (Women's Caucus) と女性史に関する学会会議グループ (Conference Group on Women's History) ——であった。

結果として、1974 年、CCWHP は新たに、女性史における学会会議グループを誕生させ、上記の②の役割をこのグループに委譲する。そして、組織全体の名称を CCWHP-CGWH としたのである。

これら二つの目的は、本来、あらゆる学会やその関連組織がもつべきものと言うことができよう。すなわち、学術研究と社会改革は常に緊張関係にあるということ、何らかのかたちで、組織運営に反映すべきなのである。しかし現実には、この二つは、両立が難しいところがある。とりわけ、社会改革という組織にとって遠心力として働く力が大きくなるにつれて、学術研究がそれについていけなくなる可能性があるわけである。そして、アメリカ合衆国の 1970 年代という時代、女性解放運動という社会の隅々にまで浸透していく改革の大波は、CCWHP という組織をも呑み込む勢いであったのである。

1994 年にキャロルは次のように書いている。「私たちの積極的行動主義 (activism)

と学術研究は、網のように織り込まれ、行動と学術の双方がもたらす力を新たに創りだし、私たちはそれを歴史へと持ち込んだのである」と¹³。翌1995年、CCWHP-CGWHは（再び）合併し、女性歴史家調整協議会となる。20年間に、二つの組織がおこなった活動は、確かに、「網のように織り込まれ」ていたのであり、本研究と密接に関係ある活動を挙げるならば、それは、「歴史研究という点で、不利な立場にいる女性研究者を、どのようにして支援していくのか」というものであった。independent historiansと呼ばれる、大学などの組織に属さない歴史家たち、あるいは、nonacademic historiansと呼ばれる、学術機関以外で歴史研究をおこなっている研究者たちを支援するために、全米の大学（歴史関係学科）に対して、これらの人々に研究上の特権を付与するように働きかけるだけでなく、アメリカ歴史学会に対しても、傘下の大学・学術機関に対してできる限りの援助をするように働きかけをおこなう¹⁴。ちなみに、当時のCCWHPの会長であり、このプロジェクトを指揮したのがキャサリン・M・プレリンガー（Catherine M. Prelinger, 1925-1991）であったのである。

3.

1998年、女性歴史家調整協議会は、長年に亘ってCCWHPという組織で活躍してきたキャサリン・プレリンガーの業績を顕彰し、同時に、「非在来的な研究者（nontraditional scholars）」を支援するために、学会賞としてのプレリンガー賞の授与を開始すると発表した。この賞は、匿名の篤志家の寄付によって可能になったものである。

プレリンガーは、1925年、ニューヨークに生まれ、1946年、バツサーでB.A.、1954年、イェールでPh.D.を取得している。コネチカットで中等学校の歴史教師を勤めた後、クィニピアック・カレッジで歴史を教える。その後、イェール大学図書館のベンジャミン・フランクリン・ペーパー・プロジェクトの編集副主幹となり、これが最終職となる。このほか、前述のようにCCWHPの会長、パークシャー女性歴史家会議会長（1975-77年）などを歴任している¹⁵。歴史研究者としての個人の業績はそれほど多くないが、プレリンガー自身が、学術研究と社会改革のための積極的行動との統合が望ましいと考えていたことを示す文書がいくつも残されている。たとえば、プレリンガーは、1978年3月、アメリカ歴史家機構（OAH）に対して入会を申し込むが、その会長宛書簡で、入会理由を、「貴機構がERA（男女平等憲法修正条項——引用者注）に対してとった立場に支持を表明するため」としている。その上で、「（ERAを批准しない州では学会年次大会をおこなわないという——引用者注）ボイコットは、結局のところ、この国では、歴史的な表現手段なのであり、したがって、私たちのような歴史学の専門団体にとって、最適の手段であると私は思うからです」としている¹⁶。

1997年6月30日付で、女性歴史家調整協議会と匿名の寄付者との間に交わされた合意文書には、まず、以下の二点が書かれていた¹⁷。

寄付者は、女性史および女性歴史家の助成、さらに歴史専門職における伝統的な体制への挑戦という点での、女性歴史家調整協議会の長年にわたる業績を讃えるために、女性歴史家調整協議会が選択し審査する非在来的な研究者（a nontraditional scholar to be screened and selected by CCWH）へ年次スカラシップを支給する。

女性歴史家調整協議会は、本財政援助および年次スカラシップを受賞するにふさわしい者の選定のためのガイドライン、基準、選考過程を制定する責任を負うものとする。

その上で、具体的な条件として、以下の3点が記されていた。

- ① 年額は1万ドルとして、5年間、継続するものとする。加えて、賞の設立と運営に必要な費用として最低300ドルを支給する。
- ② 最初の賞は、1998年9月に受給されるものとし、そのための広報が1997年12月末までに完了し、これに続いて選考がおこなわれる。
- ③ 2001年暦年以降は、双方の合意によって、年次スカラシップを支給の延長あるいは改訂がおこなわれるものとする。

ちなみに、上記の③にしたがって、本賞は2001年以降も継続され、第6回の2003年度からは賞の年額が2万ドルと増額された。

その上で、第4項で、寄付者と女性歴史家調整協議会双方があらかじめ合意した、本賞の一般要件（certain general requirements）が以下のように6点にわたって規定されていた。

- (1) Ph.D. あるいは A.B.D.（博士学位請求論文は未提出であるが、コースワーク、予備試験・総合試験等の他の要件はすべて満たした者）が対象であること。
- (2) テニユアを持つ教員へのキャリア・パスが、在来的なそれを迎ってこなかった者（たとえば、高校から大学、大学院へとストレート進学をしなかったなど）が対象である。
- (3) 取得学位は必ずしも歴史学である必要はないが、現在の研究課題は歴史研究であること。
- (4) 女性歴史家調整協議会の創立の目的が、女性史研究の振興および女性歴史家への支援であるから、本賞は、女性史への貢献（女性史への研究者としての貢献あるいは女性史研究振興への専門職としての貢献）という点での受賞者の能力を認定あるいは高めるため（to recognize or to enhance the ability of the recipient）のものである。
- (5) 賞の用途については、申請のあった研究プロジェクト遂行に適用のものであれば、特に制限を課すものではない。
- (6) すべての受賞者は、最後に、賞の用途および完結した研究の概要を女性歴史家

調整協議会に報告すること。

4.

プレリンガー賞の設立が発表されたとき、女性歴史家調整協議会について、本論文で前述したような設立経緯を多少とも知るものは、匿名の寄付者が現れたことで、女性歴史家調整協議会にふさわしい学会賞ができたことを喜んだに違いなかろう。とりわけ、independent historians あるいは nonacademic historians に取って代わって支援の手を差し伸べようという賞の設立趣旨は、多くの関係者にきわめて魅力的に映ったと思われるのである。

プレリンガー賞は、女性歴史家調整協議会が授与する学会賞であるから、会員であれば誰でも、受賞が可能である。女性歴史家調整協議会は、この会が CCWHP として設立された時点から、男性の会員を排除しなかった——最初期の男性会員には、アメリカ社会史の泰斗であったマール・カーティなどもいた——のであり、したがって、男性会員の受賞も、その研究者が、女性史への貢献という点で優れた業績を上げている限り、ありえるということになる¹⁸。

第1回目のプレリンガー賞の公募は1998年2月から開始される。提出書類は以下のとおり（いずれも、5部提出）であったが、これは、同種の学会賞への応募に要求される申請書類と変わりがないものである。

- ① 申請書（氏名、連絡先、取得学位等の基本的な情報を記入するカバーシート）
- ② 履歴書（CV）
- ③ 研究計画書（申請をおこなう研究プロジェクトの概要）
- ④ 個人調書（非在来的な経歴の説明を中心にした調書）
- ⑤ 推薦書（2通）

なお、第3回目以降の提出書類には、以上に加えて、A.B.D.で申請する場合は、論文のサンプル（出版されていなくとも可）と、応募者が提出した書類を女性歴史家調整協議会のアーカイブズに委託すること（あるいは反対に、委託を断ること）を記した宣誓書の二点が要求された¹⁹。

先に見たように、具体的な選考の基準創りは、女性歴史家調整協議会に一任されていた。では、選考委員会は、具体的にどのような基準で候補者の選考をおこなったのか。

審査員が参照すべき加點表には、この賞の基本的な性格が色濃く反映されていた²⁰。

評価項目は大きく、「研究プロジェクトへの評価」、「非在来的な経歴への評価」、そして、「歴史学という専門職への貢献についての評価」の三つであった。最初の、プロジェクトそのものへの評価が最重要（40点中の20点）であることは間違いないが、非在来的な経歴への評価と、歴史学という専門職への貢献への評価にも、それぞれ

10点が設定されていた。後者二つの項目にあたえられた加点の詳細は以下のとおりであった。

非在来的な経歴（最大加点 10 点）

- ・ プロフェッショナル・キャリアの中断度… 3 - 5 点
- ・ 過去の受賞歴なし… 2 点
- ・ 非在来的なキャリア・パスへの対処という点で、申請者の選択の独自性… 3 点

歴史学という専門職への貢献（最大加点 10 点）

- ・ 申請者の近隣の地域社会における役割モデルとしての仕事をしたこと… 3 点
- ・ 近隣の地域社会を超えて、全国あるいは国際的に、役割モデルとして仕事をしたこと… 3 点
- ・ 女性に奉仕する、あるいは、地域社会の女性の要求へ奉仕する活動家（activist）として仕事をしたこと… 3 点

以上のすべてに功績があったと認められる場合は 10 点とする（下線強調は原文のまま）。

さらには、先に述べた研究プロジェクトへの評価項目（最大加点 20 点）の中にも、「社会における、そして / あるいは、歴史専門職における、女性への本プロジェクトの貢献度… 3 点」（下線強調は原文のまま）が設定されていた。

初年度は最終的に、41 名の応募があり、1 名が選ばれた。女性歴史家調整協議会は小規模専門学会であるから、この実績はかなりの競争倍率ということになる。

では、1998 年度第 1 回目のプレリンガー賞を受賞したフラン・リーパー・バス（Fran Leeper Buss）とはどのような人物であったのか。

アイオワ州ダビューク出身で、大学卒（1964 年、アイオワ大学 BA）までは通常の学歴を普通に過ごしている。しかし、自身のことばでは、1971 年、コロラド州で、シングル・マザーの支援に乗り出し、地域の女性センターを設立することで、「私はフェミニストになった」。このときは、みずからも三人の子どものシングル・マザーであった。12 年後、神学校に行って聖職者になる。同時に、貧しき者、虐げられた者を写真と文書で記録するオーラル・ヒストリアンという仕事に関心を抱くようになる。この仕事を続けているうちに、これも本人のことばによれば、歴史分析についての自分の力不足を痛感し、大学卒の 18 年後にアリゾナ大学大学院で歴史学を専攻することになる。プレリンガー賞に応募する 3 年前に、チカーナ（メキシコ系米国人の女性）農場労働者のオーラル・ヒストリーで Ph.D. を取得しており、応募時にすでに 4 冊の著書を出版していた。1992 年にジェイン・アダムズ児童図書賞を受賞するなど、いくつかの受賞歴もあった。プレリンガー賞による研究プロジェクトは、1943 年に

アラバマ州の小作人の家に生まれ、同地での公民権運動の指導者となったアフリカ系アメリカ人女性のオーラル・ヒストリーを完成させるためのものであった。バスに推薦書を書いた女性史のある著名な研究者が、「彼女は際立って優れた経歴を、もっとも非正統的な方法で打ち立てた」としたのは、きわめて正鵠を射たものであろうし、第1回目のプレリンガー賞の受賞者にふさわしいものであった²¹。

惜しくも賞を逃した他の候補者たちの申請書を読むと、そこにはいくつかのパターンを見て取ることができる。

伝統的な“女性の天職”としての結婚、出産、あるいは、家庭的義務の遂行といったことにキャリア形成を阻まれた——ただし申請者本人は、当時は、それが「当たり前」であると思っていた——といったストーリーがひとつの典型であろう。もう一つが、歴史研究という点で言えば、最初は、まったくそのようなことは考えもしなかったが、(何度かの)人生の転機を迎え、突然、キャリア・パスを変更し、最終的にPh.D.取得を目指すようになった、というものである。ある女性は、ジュニア・カレッジを卒業後、通訳や学校教師として働いた後、外務職員養成の大学でBSを取得する。結婚、出産、夫の勤務にしたがって数回、各地を転々とし、大学を出てから7年後に、アメリカ史の研究のために大学院に戻る。そこで、アン・ファイラ・スコットの女性史に出会う。それは彼女にとって主の顕現^{エピソード}であったという。女性史でのPh.D.取得を決心し、アメリカ合衆国を代表する女性史家となるある教員が、中西部の州立大学で女性史コースを開始するとのことを聞いて、転学し、その教授の下で10年かけて博士号を取得している。これもまた、非在来的なキャリア・パスであろう。結果的に、第2回以降の応募者もそうであったが、40代あるいは50代での学位取得者が目立っている。さらに、プレリンガー賞の応募者たちの申請書のもうひとつの通奏低音とでもいべきものは、やはりフェミニズムあるいはフェミニズム運動とのかかわりである。

5.

すでに確認したように、プレリンガー賞は、「テニユアを持つ教員へのキャリア・パスが、在来的なそれを辿ってこなかった者」へ研究資金を提供するというのが最大の特徴であった。しかも、類似の賞やフェローシップが定めているような、「ジュニア・スカラー」なのか「シニア・スカラー」なのかを区別して規定していないから、すでにテニユアを持つ大学教員でもA.B.D.の研究者でも応募可能ということになる。これはすでに、プレリンガー賞の設立の合意文書に「受賞者の能力を認定あるいは高めるためのもの」とされていたことでも明らかである。この考え方はひとつの見識であろうが、賞の運営上、やはり支障や齟齬をきたすことになった。上述の第1回目の賞の授与が決定した段階で、ドナー（実際には、ドナーの法定代理人）に対しての報

告文書には、「委員会が、賞を、シニア、そしてジュニアと、交互に授与することができるのか」という疑問について、ドナーの意見を聞いてほしいとの一文が含まれていた²²。さらには、第8回目（2005年度）の受賞者になったキャスリン・フォスル（Catherine Fosl）の場合は、選考委員会で以下のような議論がおこなわれている。

すでに名前をなした研究者が受賞する（フォスルの著書 *Subversive Southerner: Anne Braden and the Struggle for Racial Justice in the Cold War South* (2002) が、二つの歴史賞を受賞していることを指す——引用者注）という事態に多くの議論が集中した。これらの人々も書かれている基準に合っていることは間違いなが、果たして、この賞本来の意図に完全に合致していると言えるのか。もっと多くの、所属機関がない研究者や非常勤講師、公共施設にいる歴史家、中等学校教員、その他学術界のメインストリームの外にいる人々が、本賞のことを知っているのか。さらなる広報が必要とされるのではないか²³。

しかし、結局、現在まで、選考委員会は、交互に授与するという方式を却下している。これに替わる対処の仕方は興味深く、先に引用した、審査員が参照すべき加点表を改訂することで、「ジュニア・スカラー」に不利にならないように配慮するという方式である。

プレリンガー賞は、「テニユアを持つ教員へのキャリア・パス」の非在来性への着目を経質としているのであるから、大学教員のキャリア形成の過程の中で、テニユアの獲得を大きな分水嶺としているわけである。しかしながら、プレリンガー賞が誕生した20世紀末というまさにその時代に、アメリカ合衆国は、大学教授職の構造変動とでも呼ぶべき一大変革を経験していた。それは、大学教員のキャリア・パスを、テニユアの獲得への道標とする見方そのものが問われ始めたことを意味する。すなわち、テニユア制度そのものが崩壊に向かって行ったのである。全米教育統計センターが公表した数値によれば、テニユアを持つ教員の比率は、1999/2000年度で全教員の53.7%であったが、2015/2016年度で過半数を割り込み47.3%である²⁴。教員の身分保障を監視しているアメリカ教授連合もその報告で「今日、テニユア制はもはや完全に崩壊している（Today the tenure system has all but collapsed）」としたのである²⁵。

教授職の構造変動は、教員のキャリア・パスに大きな影響をあたえざるを得ない。とりわけ、出産や育児等で男性教員とは異なったキャリア・パスを辿っている女性大学教員にとってはなおさらであろう²⁶。積極的差別是正政策が開始された1970年代半ばから40年余が経っても、さらにはこの間、女性大学教員の比率が大幅に上昇したにもかかわらず、女性大学教員のテニユア獲得率は約38%と変動しなかった²⁷。女性大学教員が起こしたテニユア訴訟を分析したアメリカ女性大学人協会の報告書は、訴訟が世紀転換期に激増し、かつ、性差別に関する法理論の変更により、原告女性大

学教員の敗訴が続いている状況を明らかにしているのである²⁸。

先に述べた大学教授職の構造変動が実際にどのようにして起こっていったのかは、次に挙げるプレリンガー賞応募者の経歴に如実に示されていると言えよう。この女性研究者は、東部のある私立大学で学位を取得し、近郊の大学で非常勤講師を務めていたところ、1992年、西部のある州立大学から、女性学研究センターのディレクターのポストのオファーを受ける。テニユア・トラックのポストであり、一年後にはテニユア・レビューをおこなうことを確約され、雇用契約を結ぶ。しかし、当該州の財政悪化という理由で、ポストそのものが突然、消滅し、契約は破棄されてしまう²⁹。まったくの失業状態におかれたこの女性研究者は、その後、1年あるいは1セメスター単位で、全米のさまざまな大学を、本人のことは「ジブシー・スカラー」として彷徨うことになる³⁰。この女性研究者のキャリア・パスは、Ph.D.を取得するまでは順調であったが、その後が、「在来的なそれを辿ってこなかった者」ということになろうが、プレリンガー賞応募者の経歴を瞥見するだけで、結果として、どの年度を見ても、テニユアを獲得していない者（テニユア・トラックにすらいない者）が圧倒的多数派になっている。

前述のキャスリン・フォスルもまた、著書が受賞作となったという意味では、それなりに学問的な評価がなされた研究者であったが、受賞時点では、テニユアのない助教授に過ぎなかった。それどころか、フォスルは、自身の研究テーマの継続のために、テニユア・トラックのポストのオファーがあったにもかかわらず、それでは授業負担が過大であるため、敢えて、研究時間の確保という点で、また、自身の研究のための史料へのアクセスという点で、テニユア・トラックではないポストを選んだのである。「これこそが、大学界では、『非在来的な』選択といえましょう」³¹と、フォスルの推薦者となった一人が指摘しているのであるが、それはやはり、テニユア制を前提とした話というべきであろう。テニユア制崩壊とともに、フルタイム勤務ではあるがテニユア・トラックにいない contingent faculty と呼ばれる新たな教員層が生み出されるようになった³²。プレリンガー賞は、この教授職の構造変動に、どのように対処することになるのだろうか。

* 本論文は、2017年度科学研究費補助金（基盤研究(C)15K04322）による研究成果の一部である。

注

1 Helen M. Kates to Belle Rankin, March 12, 1929. AAUW Archives, Reel 33, IV:A:1 1929, 498.

2 Minutes of the Meeting of the Board of Directors, April 13, 1929. AAUW Archives,

- Reel 33, IV:A:1 1929, 356-357.
- 3 この経緯については、坂本辰朗「女性研究者のためのフェローシップの創設：アメリカ女性大学人協会（AAUW）とフェローシップ・キャンペーン」『教育学論集』（68），2017，3-18.
 - 4 Gail Ann Schlachter and R. David Weber. *Directory of Financial Aids for Women, 2017-2019 Edition* (CreateSpace Independent Publishing Platform, 2017), 7-8.
 - 5 AHA. *Newsletter* (5), June 1970, 12-14.
 - 6 Carl Mirra, *The Admirable Radical: Staughton Lynd and Cold War Dissent, 1945-1970* (Kent State University Press, 2010), 158-162. 改革派の代表は、リンド (Staughton Lynd, 1929-)、ジン (Howard Zinn, 1922-2010)、ワスコウ (Arthur Waskow, 1933-) らであった。
 - 7 “‘Radicals’ Plan to Run Lynd for President of Historians,” *Washington Post* December 22, 1969, A6; “Radical Candidate Fails in Bid to Head Historical Association,” *New York Times* December 29, 1969, 24; “Historians’ Vote Defeats Lynd,” *Boston Globe* December 29, 1969, 1.
 - 8 “Business Meeting of the American Historical Association, 28 and 29 December 1969,” *Annual Report of the American Historical Association for the Year 1969*, Volume 1, Proceedings, 42-52.
 - 9 Berenice Carroll to Sandi Cooper et. al., September 18, 1969. Folder 9 Correspondence of Berenice Carroll, 1969-1972, Box 2, CCWHP Records. Schlesinger Library, Radcliffe Institute, Harvard University. この1969年9月18日付の書簡（同報、ここではSandi Cooper宛）には、Carrollによる“Initiated CCWHP!”という書き込みがある。内容は、女性会派がアメリカ歴史学会のどの委員会や決議とは独立した存在であること、この必要性は既にアメリカ政治学会の事例が立証しているとする。
 - 10 Berenice Carroll to Sandi Cooper et. al., September 18, 1969.
 - 11 この経緯については、坂本辰朗「アメリカ歴史学会における女性委員会の成立」『アメリカ史研究』37号，2014年，100-111.
 - 12 Berenice Carroll. Memorandum to Members of the Steering Committee and Nominating Committee of CCWHP, other interested parties, October 26, 1971. Box 2, Folder 12. CCWHP Records. Schlesinger Library, Radcliffe Institute, Harvard University.
 - 13 Berenice A. Carroll. “Scholarship and Action: CCWHP and the Movement(s),” *Journal of Women’s History* 6(3), Fall 1994, 83.
 - 14 Carroll, “Scholarship and Action,” 101.
 - 15 プレリンガーの死亡追悼記事は、“C. M. Prelinger, 66, Author and Historian,” *New*

- York Times* September 5, 1991. “Catherine Prelinger, Historian, Teacher,” *Hartford Courant* September 4, 1991. を参照。
- 16 Catherine M. Prelinger to Kenneth Stampf, March 22, 1978. Box 5, Folder 14. Records of the Coordinating Committee on Women in the Historical Profession, Schlesinger Library, Radcliffe Institute for Advanced Study, Harvard University. なお、CCWHP は AHA に対しても年次大会ボイコット運動に加わるように圧力をかけるために、組織的な年会費支払い拒否運動を起こす。最終的に、AHA も年次大会ボイコット運動に参加するようになる。
- 17 Agreement to Fund Scholarship. Box 19, Folder 3. Records of the Coordinating Committee on Women in the Historical Profession, Schlesinger Library, Radcliffe Institute for Advanced Study, Harvard University.
- 18 実際には、応募者の中に男性はほぼ皆無である。本論の執筆者が確認した範囲では、第2回（1999年）に一人、第8回（2005年）に一人確認できる。
- 19 CCWH/Catherine Prelinger Award Committee Report, 1999. Box 20, Folder 6. Records of the Coordinating Committee on Women in the Historical Profession, Schlesinger Library, Radcliffe Institute for Advanced Study, Harvard University.
- 20 Ranking Scheme for the Prelinger Prize 1999. Box 19, Folder 12. Records of the Coordinating Committee on Women in the Historical Profession, Schlesinger Library, Radcliffe Institute for Advanced Study, Harvard University.
- 21 <https://sirow.arizona.edu/fran-buss-phd> [Accessed December 18, 2017]; <https://theccwh.org/ccwh-awards/catherine-prelinger-award/> [Accessed June 10, 2017]; <http://www.franleeperbuss.com/Bio.html> [Accessed June 10, 2017]; 1998 CCWH-CPAS Winner – Frances L. Buss. Box 19, Folder 11. Records of the Coordinating Committee on Women in the Historical Profession, Schlesinger Library, Radcliffe Institute for Advanced Study, Harvard University.
- 22 Peggy Renner to David Kornblau, April 17, 1998. 1998 CCWH-CPAS Winner – Frances L. Buss. Box 19, Folder 11. Records of the Coordinating Committee on Women in the Historical Profession, Schlesinger Library, Radcliffe Institute for Advanced Study, Harvard University.
- 23 CCWH Board Meeting Minutes (with annotations made after the conference), AHA Conference, Philadelphia, January 5, 2006. Box 9, Folder 1. Records of the Coordinating Committee on Women in the Historical Profession, Schlesinger Library, Radcliffe Institute for Advanced Study, Harvard University.
- 24 NCES. *Digest of Education Statistics* 2016 Edition, Table 316.80.
- 25 AAUP. Tenure and Teaching-Intensive Appointments. Report of the Committee on Contingency and the Profession. 2010. <https://www.aaup.org/report/tenure-and->

- teaching-intensive-appointments. [Accessed, June 10, 2017]
- 26 Valerie Martin Conley. "Career Paths for Women Faculty: Evidence from NSOPF: 99." *New Directions for Higher Education* No. 130, Summer 2005, 25-39.
- 27 Richard P. Chait. Ed. *The Questions of Tenure* Harvard University Press, 2002, 17.
- 28 AAUW Education Foundation. *Tenure Denied: Cases of Sex Discrimination in Academia* AAUW Legal Advocacy Fund, 2004.
- 29 言うまでもなく、このような契約破棄は、通常は訴訟の対象になりえるのであるが、この州では90年代初めに深刻な景気後退に直面しており、州内総生産の対前年度伸び率は91年から93年までマイナスとなり、失業率も10%に迫るかという高い数値を記録していたのである。このような場合、同州では、上記の契約破棄は可能とされていた。
- 30 1998 CCWH-CPAS Applications, O-R. Box 19, Folder 8. Records of the Coordinating Committee on Women in the Historical Profession, Schlesinger Library, Radcliffe Institute for Advanced Study, Harvard University.
- 31 2005 CCWH-CPAS Application-Fosl, Catherine. Box 23, Folder 5. Records of the Coordinating Committee on Women in the Historical Profession, Schlesinger Library, Radcliffe Institute for Advanced Study, Harvard University.
- 32 なお、教授職の構造変動という論点からは、テニユアを獲得した教員へのポスト・テニユア・レビュー導入も急速に進んでいるという事態も考察に値する問題であろう。Anne D. Neal. "Reviewing Post-Tenure Review," *Academe*, 94(5), Sep/Oct, 2008, 27-30.

A Research Fund for Non-traditional Women Scholars

—A Case Study of the Catherine Prelinger Award—

Tatsuro SAKAMOTO

This paper presents a case study of the Catherine Prelinger Award, established in 1998 by the Coordinating Council on Women Historians (CCWH). The CCWH, originally launched in 1970 as a women's caucus in the American Historical Association, has been committed to exploring the diverse experiences and histories of all women and to promoting research and interpretation in areas of women's history by both female and male scholars.

The Award was made possible by an anonymous donor, and the Agreement to Fund Scholarship stated that the award will be given to a scholar with either a Ph.D. or an A.B.D. "who has not followed the traditional academic path of uninterrupted and completed secondary, undergraduate, and graduate degrees leading into a tenured faculty position." The Agreement also stated that "although the recipient's degrees do not have to be in history, the recipient's work should be clearly historical in nature; in accordance with the general goals of CCWH, the award is intended to recognize or to enhance the ability of the recipient to contribute significantly to women in history, whether in the profession in the present or in the study of women in the past."

This study analyzes application forms the candidates submitted during the time span of 1998-2008 and discusses some problems and issues that the CCWH had to address in selecting the winners. In order to select the best "non-traditional" scholars, the CCWH created a "non-traditional" ranking system (point system). The CCWH also devised a special application form that highlights the unique qualities of the candidates' choices in coping with a nontraditional career path.